

社会福祉法人よるべ会

令和5年度事業報告書

令和6年6月13日

【社会福祉法人よるべ会】令和5年度 職務執行状況報告書

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5月より5類感染症とされ、法人内施設・事業所は長い活動自粛から脱し、予防対策を継続しながらも各種行事やプログラム等が徐々に再開され始めた。

法人及び各施設・事業所の財務や執行確認、各々の状況や諸課題の報告・検討・対応については定例の責任者会議、運営会議、サービス向上会議等にて行い、ガバナンス強化に努め続けてきた。一方、地球上での戦争や気象変動、そして円安、物価高騰、さらに年明けに発生した能登半島地震等々社会環境の変化や経済情勢に大きく影響を受け、その対応に追われた1年であった。

〔1〕令和5年度活動計画に添って

□権利擁護

- 虐待防止・身体的拘束適正化のための指針を作成、各施設での運用。
- 全体職員研修会の実施。 9月16日（土）
「現場におけるメンタルヘルス・アンガーマネジメント」受講・グループワーク
- 職員倫理綱領及び行動規範の見直し、改訂につないだ。

□業務の検証と改善

- ICT機器の有効活用と効率化を図り、働きやすい環境づくり。
- 「第3者サービス評価機関」審査を9月受審
（よるべ沼代・梅香園・わらべの杜）
- 地域生活支援課と「あずさの家」の統合検討、令和6年度組織体制で「地域生活支援室」となる。

□人材確保・育成

- 法人“説明・見学会”実施（参加者：7月6名、1月4名⇒3名が採用に）及び紹介ホームページ、動画作成。
- 法人内職員交換研修（10・11月）を行い、相互の現場力向上を図った。
- 主任職員研修 A：9名 6/20・8/24・9/20 B：10名 10/24・11/24・1/26
- 外国人技能実習生受け入れ。採用面接・オリエンテーション、宿舍準備等を行い3月1日よりインドネシアから2名を迎え入れ入職となった。
- 障害者雇用の促進（梅香園、コスタ・二宮、わらべの杜）を図り、雇用率制度への対応を図った。

□地域社会との連携

- コロナ5類移行により地域活動への参加を再開し関係づくりに努めた。
- 1市3町（小田原市、箱根町、湯河原町、真鶴町）委託相談事業所「クローバー」の運営加入（市内4法人）し、職員派遣を10月より実施。

□職員労務管理の改善

- 資格取得奨励制度の検証。
- 法改正や業務改善等に伴って諸手当規程の見直し整備の実施。
- 国による特定処遇改善加算の実施に評価基準及び加算額、更に非常勤職員人事考課の作成等を実施。

□梅香園敷地（小田原市有地）借地契約について、市より令和9年度からの有償化が示され、それまでの令和6～8年度3年間の無償契約を行った。

□令和5年度国補正予算による大規模修繕等補助金申請「井戸整備」を行い、3月26日付で決定通知を受けた。

□法人40周年記念事業について企画・検討・準備を進めた。

□令和6年1月1日発生 of 能登半島地震災害支援として義援金協力（全社協、知的障害者福祉協会、セルフ協）及びDWAT職員派遣依頼にこたえて派遣準備を行った。

〔2〕事業運営（令和6年3月31日現在）

【事業運営】（令和6年3月31日現在）								
事業所名	よるべ沼代 （障害者支援施設）		コスタ・二宮 （障害福祉サービス事業所）		梅香園 （障害福祉サービス事業所）		わらべの杜 （福祉型障害児入所施設）	
	実施事業	施設入所支援	定員40名	就労継続支援B型	定員20名	就労継続支援B型	定員18名	施設入所支援
生活介護		定員40名	生活介護	定員20名	生活介護	定員22名	短期入所	定員4名
短期入所		定員4名					相談支援事業	
相談支援事業								
事業所名	障害者支援センターぼけっと （就業・生活支援センター）		かめりあ・ポラリスホーム 共同生活支援事業（計8棟）		あずさの家 共同生活支援事業（計3棟）		どーむ （児童発達支援事業所）	
	就業・生活支援センター	登録者約500名	かめりあホーム	定員 33名	あずさの家	定員 7名	児童発達支援事業	定員10名
地域就労援助センター		ポラリスホーム	定員 13名	ポプラの家	定員 7名			
					わたくも	定員 7名		

〔3〕理事会・評議員会開催状況

*監事監査 令和5年6月1日（安西監事・清水監事）

*理事会

開催日	議案	出席者
6月9日	第1号議案 令和4年度事業報告(案)	理事7名
	第2号議案 令和4年度計算書類及び財産目録(案)	監事2名
	第3号議案 任期満了に伴う役員候補者の改選	
	第4号議案 退任評議員の改選	
	第5号議案 評議員選任・解任委員会の開催	
	第6号議案 令和5年度第1回定時評議員会の開催について	
	第7号議案 よるべ会定款変更(案)	
	第8号議案 運営規程改定(案)	

6月23日	第1号議案 理事長の選定	理事7名
	第2号議案 顧問の選任	監事1名
	第3号議案 特定処遇改善費の申請	
	第4号議案 よるべ会40周年記念式典について	
10月19日	第1号議案 令和5年度資金収支第1次補正予算(案)	理事6名
	第2号議案 諸規程の改定(案)	監事1名
	第3号議案 令和5年度第2回評議員会開催について	
3月9日	第1号議案 令和5年度資金収支第2次補正予算(案)	理事7名
	第2号議案 令和6年度事業計画(案)	監事1名
	第3号議案 令和6年度当初予算(案)	
	第4号議案 管理者の任免について	
	第5号議案 諸規程の改定(案)	
	第6号議案 令和5年度第3回評議員開催について	
3月26日	第1号議案 梅香園「市有地財産無償貸付契約」変更について	理事7名
		監事2名

*評議員会

開催日	議案	出席者
6月23日	第1号議案 令和4年度計算書類及び財産目録(案)	評議員7名
	第2号議案 新役員(理事・監事)の選任について	監事1名
	第3号議案 よるべ会定款変更(案)	
10月28日	第1号議案 令和5年度資金収支第1次補正予算(案)	評議員6名 監事2名
3月17日	第1号議案 令和5年度資金収支第2次補正予算(案)	評議員6名
	第2号議案 令和6年度事業計画(案)	監事2名
	第3号議案 令和6年度当初予算(案)	
	第4号議案 役員報酬規程について	

[4] 契約・入札処理及び固定資産について

*ナスカの家 リフォーム工事 (株)オフィスコジマ 1,813,900円

〔5〕法人全体職員状況

職種	よるべ沼代		コスタ・二宮		梅香園		わらべの杜		ぼけっと		地域生活支援室				どーむ	
											二宮地区		小田原地区			
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1		1		1		1		1		1(兼)		1		1(兼)	
サビ児管	1(兼)		1(兼)		1		1(兼)				2		1(兼)		1	
医師																
看護師	1		1(兼)		1(兼)											
栄養士																
生活支援員	13	5	2	4	5	1					5		2			
支援員		1	5	5	3	8			4	3						3
保育士								5	5						1	1
児童指導員								7	11							
相談支援専門員	4															
世話人												24		17		
運転手介助員			1		4		1	1								
事務員	4		1	1												
その他																
小計	23	6	8	11	11	13	14	17	5	3	7	24	3	17	2	4
	29		19		24		31		8		31		20		6	
合計	73	95	168													

〔6〕主な会議等

会議名	開催数	開催日
全体職員会議・研修	5回	7/8 9/16 11/11 2/17 3/9
執行責任者会	27回	4/11・25 5/16・30 6/13・27 7/11・25 8/8・29 9/12・26
		10/10・31 11/14・28 12/12・15・26 1/9・18・30 2/8・13・27 3/5・26
運営会議	12回	4/11 5/16 6/13 7/13 8/8 9/12 10/10 11/14 12/12 1/9 2/13 3/12
サービス向上会議	12回	4/25 5/30 6/27 7/25 8/29 9/26 10/31 11/28 12/26 1/30 2/27 3/26
労務委員会	12回	4/21 5/17 6/12 7/19 8/18 9/29 10/13 11/9 12/25 1/12 2/9 3/19

〔7〕労働安全衛生

*職員健康診断を実施（7月6・13日）

〔8〕広報活動

*かわら版 2回／年 夏号8月発行 冬号1月発行

*ぼけっと通信 3回／年

*ホームページ 順次更新

〔9〕法人行事・研修等

令和5年度 行事・会議・研修表		
	行事・家族会他	理事会・研修会他
4	03(月) 辞令交付 09(日) 沼代地区祭り () よるべ会保護者会総会(書面決議) 18(火) みのり会総会 26(水) 健康診断(梅香園)	11(火) 責任者会・運営会議 25(火) 責任者会・サービス向上会議
5	12(金) ハイキング(梅香園) 27(土) コスタ二宮日帰り旅行	16(火) 責任者会・運営会議 30(火) 責任者会・サービス向上会議
6	30(金) 梅香園レク①	01(木) よるべ会監事監査 08(木) よるべ会理事会 13(火) 責任者会・運営会議 23(金) よるべ会評議員会・理事会 27(火) 責任者会・サービス向上会議
7	06(木) 健康診断(コスタ・わらべ) 13(木) 健康診断(よるべ沼代) 22(土) 梅香園納涼大会 29(土) よるべ夏祭り	08(土) 全体職員会議 11(火) 責任者会・運営会議 25(火) 責任者会・サービス向上会議
8	11(金)～15(火) 夏休み 21(月)～22(火) わらべの杜一泊旅行 25(金) 梅香園レク②	08(火) 責任者会・運営会議 29(火) 責任者会・サービス向上会議
9	(日) 健民祭(よるべ沼代・わらべの杜) 16(土) よるべ会保護者会 18(月) 敬老会(よるべ沼代) 29(金) よるべ沼代日帰り旅行① 24(土) 歯科検診(よるべ沼代)	12(火) 責任者会・運営会議 16(土) 法人全体職員研修会 26(火) 責任者会・サービス向上会議
10	14(土) コスタ二宮イベント 20(金) よるべ沼代日帰り旅行② 27(金) 予防接種(よるべ沼代) 28(土) 予防接種(わらべの杜) 31(火) 予防接種(梅香園)	10(火) 責任者会・運営会議 19(木) よるべ会理事会 27(金) よるべ会評議員 31(火) 責任者会・サービス向上会議
11	11(土) 予防接種(コスタ二宮) 18(土) 予防接種(わらべの杜)	11(土) 全体職員会議 14(火) 責任者会・運営会議 27(月) 神奈川県指導監査・実地指導 28(火) 責任者会・サービス向上会議
12	02(土) 障害者文化事業 09(土) よるべ会保護者会・よるべ沼代清掃 14(木) よるべ沼代クリスマス会 16(土) コスタ二宮クリスマス会 16(土) わらべの杜クリスマス会 23(土) 梅香園クリスマス会 28(木) よるべ沼代餅つき 29(金)～1/3(水) 冬休み	12(火) 責任者会・運営会議 26(火) 責任者会・サービス向上会議
1	4(木) 仕事始め 06(土) よるべ会新年会・大山阿夫利神社参拝 09(火) どんど焼き(わらべの杜) 12(金) どんど焼き(よるべ沼代)	09(火) 責任者会・運営会議 27(月) 神奈川県法人指導監査 30(火) 責任者会・サービス向上会議
2	09(金) 梅香園レク④ 17(土) 内科検診(よるべ沼代) 17(土) よるべ会保護者会役員会 25(日) 消防団合同訓練(よるべ沼代・わらべの杜)	13(火) 責任者会・運営会議 17(土) 全体職員会議 27(火) 責任者会・サービス向上会議
3		07(木) よるべ会理事会 09(土) 全体職員会議 12(火) 責任者会・運営会議 15(金) よるべ会評議員会 26(火) よるべ会理事会 26(火) 責任者会・サービス向上会議

【よるべ沼代】 令和5年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

法人の基本方針に基づき、質の高いサービス提供に向けて、「施設入所支援」「生活介護」「短期入所」「日中一時」事業をさらに充実させ、入所利用者の高齢化・重度化への対応等の必要な支援を進める。他の事業所と連携を深め、施設生活の質の向上に向けた環境づくりを積極的・計画的に実施する。

- ・生活介護事業の活動の充実を図るため、作業種や活動内容の検討を進める。
- ・身体機能の減退を防止するため、理学療法訓練の充実を図る。
- ・感染症予防や、まん延の防止のため、感染症対策を検討する委員会を定期的に開催し職員への周知を図る。
- ・感染症や非常災害発生時の業務継続計画（BCP）の検証、改善をする。必要なサービスを継続的に提供できる体制づくりを進める。

〔2〕 取り組みと状況報告

感染症予防として毎日の検温、体調管理、消毒等の対応を継続。感染症の状況を見ながら長期休暇の帰宅や、面会の制限を緩和した。外出・外食の機会や、行事、クラブ活動等余暇の楽しみを増やした。

■個別支援計画の事例 Sさん 24歳女性 区分5。他害、2階居室窓からの転落等の行為があり、身体的拘束（居室施錠による行動制限）実施中の方。

日常生活において行動制限されている時間が多く、医療や関係機関と連携し本人の状況に合った環境づくりをはじめ、必要な支援を進めた。新しいことに挑戦し、本人のモチベーションの維持や充足感につなげることを、個別支援計画の目標として、生活スキルの向上（入浴時に洗髪・洗体がひとりでできるように）という到達点に向け、見本の提示、本人にわかりやすい声かけや工程を情報共有しながら支援を進め目標を達成することが出来た。職員間で統一した支援を実施することで本人の混乱は少なく、逸脱行為も見られなかった。また、身体的拘束に対する職員の意識も向上し、本人とのより良い関係づくりにもつながった。

〔3〕 次年度に向けて

本人の状況に合った生活環境がどこまで提供できているのか十分に検討し、本人にとってより良い生活環境に向けて、関係機関との連携をはかりながら進める。高齢者や行動障害のある方について、より個別の楽しみとなる活動を目指し、改善を進める。

[6] 令和5年度まとめ※事業所の課題および実施状況 (評価 ○・△・×)

具体的活動	到達点	実施状況	評
<p>【権利擁護の確立】 本人の意向、思いを意識する取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護についての内部研修の開催。 ・チェックリストを活用し、検証する。 	<p>権利擁護に対する意識の向上。 本人の意向、思いを反映した場面を多く作り、職員間で共有する。</p>	<p>毎月の寮会議にて虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会を実施した。チェックリストを使用し、職員の意識確認を行う。寮会議にて集計結果を共有し、その結果を次年度に繋げられるよう進めた。</p>	△
<p>【人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性を向上するための研修を実施する。 ・やりがい、意欲につながるコミュニケーションの場や職場環境について等、改善を進める。 	<p>働きやすい環境づくりに向けた改善を実施した。</p>	<p>資格取得研修などへの参加を適宜行なった。職場環境の改善について 寮会議や人事考課などを通して意見の聞き取りを行い、少しずつ取り組んだ。大きな環境改善には、つなげることができなかった。</p>	△
<p>【業務の検証と改善】 検討チームをつくり、各事業のサービス提供の充実を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設入所：楽しみの場面の増設。(クラブ、教室等の検討、実施。) ・生活介護：活動内容の検討。(世代や特性を考慮した活動を検討、実施。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容の見極めが出来、日中活動班や寮の改善に繋がった。 ・職場の整理整頓が習慣化。職場での働きやすい環境づくり、環境美化への意識が高まった 	<p>毎月の寮会議にて業務の検証を行い、業務内容や利用者の日課などを改善した。施設入所・生活介護においてチームで検討を行ない、足湯、ネイルサロン等の楽しみ作りを実施することができた。また、次年度の月ごとのレクリエーションの計画につながった。</p>	△
<p>【地域社会との連携】地域の方やボランティア、関係機関との交流の場を増設する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を踏まえた交流の方法を工夫し、実施する。 	<p>地域との交流の機会が増えた。</p>	<p>クラブ活動では、ボランティアとの関わりが増え、発表会などへの参加もできた。地域で開催される会議への参加等、関係機関との関わりも増えた。感染対策を継続しながら、見直しを検討した。</p>	○

〔7〕防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
10/16（月）	【夜間訓練】 避難・初期消火・通報訓練	夜勤職員 全利用者	地震を想定しての訓練を実施したが、各利用者の特性を考慮した避難方法について今後も検討が必要。
2/25（日）	【地域消防団との総合訓練】避難・消火・通報訓練 ・地域消防団との連携	出勤職員 全利用者	火災発生への対応を考慮し、避難経路や避難場所の変更も今後検討。

〔8〕リスクマネジメント（事故報告）

種類	件数	内容等
転倒	77	居室/食堂/廊下等移動時が増加。（令和4年度34件）
ケガ	6	脱衣場での転落。転倒による擦り傷、打撲等。
服薬	19	落葉、錠数違い、飲ませ忘れ他。
利用者トラブル	20	他者の物を無断で持ち去る／他者の部屋等への侵入他。
車両	1	駐車中の窓ガラスの破損。
その他	62	他者の食事を食べる／異食/食数間違い/連絡ミス他。

■＜重大事故＞ ※県・市町へ報告 1件

日付	種類	内容	対処	対応・対策
8月18日	骨折	脱衣場入口にて転倒し、 大腿骨（転子部）骨折。	緊急通院	近隣の整形外科へ通院し、骨折が判明。市立病院にて手術、入院。

〔9〕苦情解決 ■苦情件数 0件

■レクリエーションの風景

ハロウィン

楽菜班

【地域生活支援課】 令和5年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

利用者のライフステージに沿いながら、若い世代の利用者への今後に向けた目標を念頭とした支援や中高年齢世代の利用者の方々への医療、介護といったフォーマルな社会資源との連携、また地域社会に存在するインフォーマルな社会資源との繋がりを意識した支援を実施して、利用者の方が地域で安心して生活し暮らす、ということに繋がる取り組みを実施していく。そしてお住いのホームがご自身にとって安心した生活の空間となるように、感染症対策を実施しながら細やかな生活の支援を行っていく。

事業所名	利用定員	住居数	名称
かめりあホーム	34名 (うち1名はサテライト住居)	6か所	ナスカの家、一色ハウス(*)、湘南ビレッジ、かめりあホームⅠ、かめりあホームⅡ、ラパ・ゆりが丘
ポラリスホーム	13名	2か所	ポラリスホーム、エピナールホーム

*令和5年度から定員1名増

〔2〕 取り組みと状況報告

コロナウイルスによる制約のある生活を送るようになって4年経過した。感染力の高いウイルスであることを踏まえたBCPを昨年度作成し、今年度も感染が生じた時にはBCPに沿いながら、必要な支援を常勤職員中心に対応、その都度乗り越えてきた。BCPは、実際の取り組みを反映させて状況に対処できるように手直しをしてきた。

今年度は利用者本位のGHであることを目標として、日々の支援やその先のサポートを意識しながら取り組みを行った。例えば、平均年齢が高い女性利用者を中心に、障害福祉サービスと介護保険の並行利用をイメージして、そうしたサービス利用が日々の生活に馴染むように職員が関りを行った例がある。そこでも利用者本位という点は欠かせない視点であった。新たな利用先を確保するために利用者をデイサービスにお連れしたが、職員目線でそうしたことを進めても、利用者自身が望んでいることではないという反応を受けることもあった。言葉に現れる利用者の希望も、実際にそうした場にお連れしてみないとその真意がわからない時もある。また、そうした機会を持てたことにより、より利用者の思いや願いを学ぶこともできた。若い世代では、就労しているケースも多い。利用者本位という視点で就労支援に関わると、就労に対して利用者が抱えている姿と、職員が描いている姿と異なると感じた例もあった。ともすると現実的ではない利用者の望む就労の姿が表明されたとき、そのためにGHではどこまでその願いに答えられるのか、というジレンマを覚

える事例もあった。利用者本位とはとても大切な価値観であるということとともに、こうしたジレンマと向き合う機会も多くなるという厳しさも感じた。

〔3〕次年度に向けて

幅広い世代の利用者一人ひとりのニーズをきちんと捉えた個別支援計画を立案する。その支援を提供していくために、職員一人ひとりが正しい支援スキルを備え発揮できるように、学びを怠らず教育の機会を持つ工夫をしていく。

正確性や効率性を念頭に置いた業務の在り方を意識して、改善への視点を忘れずに、スムーズな業務運営が出来る集団を目指す。

〔4〕利用者状況

■年齢区分（令和6年3月31日現在）									
	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計
男	0	10	2	8	5	6	2	45歳	33
女	0	1	0	1	1	1	6	64歳	10
計	0	11	2	9	6	7	8	55歳	43
最小年齢：20才 ・ 最高齢 84才									

■障害支援区分（令和6年3月31日現在）									
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	
男	1	1	20	9	2	0	0	2.3	
女			2	5	4			3.2	
計	1	1	22	14	6	0	0	2.8	

■在所年数（令和6年3月31日現在）									
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	計
男	1	0	3	7	8	4	5	5	33
女	0	0	0	1	2	1	4	2	10
計	1	0	3	8	10	5	9	7	43

■開所日数および利用者数・利用日数（令和6年3月31日現在）														
【かめりあホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
実人数	男	22	22	23	22	22	22	22	22	22	21	22	22	264
延べ利用日数		654	660	688	677	654	660	649	629	646	606	607	639	7769
実人数	女	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	127
延べ利用日数		330	335	330	341	337	330	323	300	309	304	290	310	3839
【ボラリスホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
実人数	男	11	11	10	10	10	10	10	11	11	12	11	11	128
延べ利用日数		323	337	296	309	304	300	261	270	269	318	284	279	3550
実人数	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
延べ利用日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366

■令和6年度 新規入所者年齢（令和6年3月31日）						
	10～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	計
男	1	0	0	1	2	4
女	0	0	0	0	0	0

■令和6年度 退所者状況（令和6年3月31日）			
	自宅	介護施設	他
男	1	0	1
女	0	0	1

〔5〕令和5年度まとめ ※各事業所の課題お実施状況（評価 ○・△・×）

具体的活動	到達点	実施状況	評
【権利擁護の確立】 権利擁護の基礎研修、学習を通して必要な知識やスキル、権利擁護に対する意識を高める。 ・学習の場、研修への積極的な参加等の機会を作る。 ・自己チェック表を活用。自己評価、課題の抽出、改善を図る。	8か所のGHで伝達研修、共有研修が実施できたかどうか。	前期は、社会で起きている出来事などを通して権利擁護の視点で職員間で合理的配慮、権利擁護、意思決定支援などの学習を行った。 虐待防止委員会、身体拘束に関する防止委員会等、フォーマルな活動まではまだ至っていない。次年度以降、部門として取り組んでいけるように、検討を引き続き行っていきたい。	△
【人材の確保、育成】 利用者の自己決定を支援するために、意思決定支援を課として学び、その実践をすすめる。	意思決定支援について、年間を通して、課職員が複数学ぶ機会を持つ。 研修の参加、その伝達を進める。	非常勤職員も対象とした人事考課面談を実施することができた。それぞれ勤務時間の違いもあるが、支援に対する姿勢や利用者に対する気持ちをしっかりと持ち、それぞれが目標をもって利用者に関わる姿勢であることが確認できた。	△
【業務の検証と改善】 ・業務状況を確認。必要な業務と簡素化できる業務の見極めを行う。 ・現場からの提案の吸い上げをし、業務に反映をしていく。	ウィークリー業務、マンスリー業務、年間スケジュールを意識した業務運営を実施して、各職員が課としてのスケジュールに長けた状態を目指す。	職員の顔ぶれが増えた今年度であったが、これまでの積み重ねを浸透させて、効率よく業務にあたることやそのための情報共有、実施した業務の保存等、業務維持ができている、と感じている。	○
【地域社会との連携】 地域自治会組織や社協等の活動への参加、交流を図る	地域との交流の機会が増えた	主だった活動は行えていないが、日常的にあいさつや声掛けを職員から行ったり、季節に即したご挨拶に伺い関係性を持つ機会を作るなど、GHが地域の中に普通にあるための関わりを意識して取り組んだ。	○

〔6〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
5月、7月、9月、 11月、1月、3月	自主点検	職員 利用者	各 GH の検査対象（消火器等）を基準と照らして検査した。年間 2 回、業者委託による検査を行った。
10月、3月	【避難訓練】 大規模災害訓練 (避難・通報・誘導)		各 GH が大規模災害にあった時に、世話人の誘導の元、速やかに避難場所までの移動ができた。
まとめ	年間を通して予定した防災訓練や点検等を実施した。		

〔7〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	数	内容等
転倒/転落		
服薬	2	9月 利用者に誤って常服薬を多く渡してしまった。 1月 就寝薬を勤務者が渡し損ねてしまった。
ケガ	0	
利用者 トラブル	0	
車両	4	5月 出勤時、駐車場柵に運転ミスで接触。 5月 路肩に接触。タイヤをバースト。 8月 食材配達時、交差点で衝突事故 8月 食材配達時、横断歩道手前で前方バイクと衝突事故
その他	3	10月 エピナールホーム利用者、持病（統合失調症）のための常服薬を怠薬し続け、その影響により精神的に不安定となる。精神科に任意入院となった。 2月 エピナールホーム利用者、持病（統合失調症）の再発があり幻覚幻聴が強まり、路上でご本人が全裸になってしまう。医療保護入院となった。 3月 GHを卒業し、地域生活を送っていた方が精神的に不安定となり行方が分からなくなる。約1か月、連絡が途絶えた。ご本人がコンタクトしてこられ、無事に元の地域生活に戻れるようにサポートを再開した。

■ <重大事故> ※県・市町へ報告

5月3か所のGH、6月1か所のGH、8月1か所のGH、9月1か所のGH、2月1か所のGHに生じたコロナ感染の件で、それぞれ報告を行った。

〔8〕 苦情解決

苦情件数 0件

【相談支援課】 令和5年度 事業報告書

〔1〕 取り組みと状況報告

- 1 相談支援専門員が3名の配置で、機能強化（Ⅱ）の報酬単価（計画：1,764単位、モニタリング：1,513単位）。
- 2 専門分野別研修「地域移行・地域定着」の資格取得により、当該月の対応ケース件数に加算を100単位付けられるようになった。
- 3 1市3町（小田原市、真鶴町、湯河原町、箱根町）の「障がい者相談支援事業」を10月より受託。専従で職員が出向して業務にあたっている。週に6日開所、4法人が当番制で配置されている。よるべ会は月曜日～木曜日と土曜日が当番。地域の障害のある方のご相談を受けて福祉サービスに繋げることが主な業務であるが、その他に障がいのある方の啓蒙活動や、ピア活動等も行っている。

4 契約ケース件数

○4月年度開始時	223 ケース	
○支援の終了ケース	5 ケース	逝去 1 件、福祉サービスの利用予定なし 1 件、介護保険への移行 2 件、他市の GH 移行のために相談事業所も移行 2 件
○支援の開始ケース	11 ケース	
○3月現在の契約ケース	229 ケース	

令和5年度 相談支援課 支援対応実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
モニタリング	20	17	17	20	21	40	14	14	15	21	20	40	259
サービスの更新 (計画案・計画)	8	10	10	14	24	13	12	14	13	15	23	11	167
サービスの追加・変更 (計画案・計画)	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	4
ケース会議	8	9	13	12	13	9	12	7	9	7	13	14	126
家庭・事業所訪問	6	5	10	9	6	6	3	4	6	2	10	2	69
個別面談 (電話対応含む)	73	68	73	86	66	78	91	126	131	99	133	127	1151
見学(体験)同行	2	7	7	6	5	1	2	5	3	3	3	5	49
その他支援	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
支援の終了	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	1	0	5
支援の開始	1	3	0	0	0	1	3	0	1	1	0	1	11
新規依頼	0	0	4	0	0	1	0	0	1	1	1	1	9
支援対応件数	118	123	137	147	135	151	137	171	179	151	205	201	1855

〔2〕 令和5年度のまとめ ※各事業所の課題および実施状況

具体的活動	到達点	実施状況	評
<p>権利擁護の確立 一人ひとりの“らしさ”を支援する</p>	<p>本人の思いに沿った言葉となっている計画を作る</p>	<p>相手に伝える、伝わる言葉を意識して計画作成を行ってきました。 二宮から横浜のGHへの移行に関わる支援について、主担当の相談員が地域を超えての関係各所との連携に感動したと、サクセスを実感が出来た。ケース会等でキチンと言葉を伝えられた成果ではないだろうか。 令和5年度相談支援・就業支援セミナーを聴講。昨年度に続き福岡寿氏の講演を聞き相談支援について理解を深められた。</p>	○
<p>職員のスキルアップ 相談支援スキルの向上</p>	<p>0（観察） 0（見立て） D（決定） A（行動） の視点を持った支援技術の高まり</p>	<p>小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町 地域障害者自立支援協議会、足柄上郡自立支援協議会、基幹及び主任相談支援専門員連絡会、等の研修会に20回参加。 11月には法人内の事業所に出向き研修を受け、課でも研修を引き受けている。学習の良い機会となっている。 相談支援を通して経験した知識と講習会等から得られた知識が一人一人の相談員のスキル向上となっている。</p>	○
<p>業務の検証と改善 働きやすい環境づくり</p>	<p>課の相談支援の仕組みの見直し</p>	<p>11月～新任職員配属のために、手順書等の見直しを行った。日々の業務で当たり前となっていたことの振り返りが出来る良い機会となった。 新人職員の教育をチューター制度を活用して行い、教育係も自身のやっていることを伝える事で自身の業務の振り返りの良い機会となった。 新任職員がGoogleマップを活用して県西地区の事業所（生活介護、B型、GH等）のマップを作成して、各事業所のHPも貼り付けてくれたので有効に活用が出来ている。</p>	○
<p>地域との連携 安心して暮らせる地域づくり</p>	<p>地域社会、関係機関との連携の強化</p>	<p>10月よりおだわら障がい者相談支援センター「クローバー」の事業に参入しました。一般相談を通して県西圏域での障害のある方からの相談の件数の多さを改めて知りました。そのことを通して特定相談としての役割について考え方や見方も変わってきています。地域の障害のある方を地域でどう支えていくのか？次年度の活動の課題として考えていきたい。 11月にエールの相談員と座談会を開催。地域での相談支援のあり方、役割について意見交換をしている。</p>	○

【コスタ・二宮】 令和5年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

【就労継続B型＝コスタ・二宮/食品部門】

- ・食品作業を主体とし、商品がすべてオリジナルである為の強みを生かし、利用者の適性活かし作業提供していきます。安定した工賃の支給を目指していきます。

【生活介護＝SP企画】

- ・豊かな社会生活を過ごすために生産活動・学習活動・創作活動等のプログラムを個々のニーズに基づき提供していきます。「はたらきたい」という方のために、安定した作業の確保を行っていきます。

【その他】

- ・開所日プログラムを充実させ、余暇支援の提供を行います。

〔2〕 取り組みと状況報告

令和5年度も物価高騰が継続的に上昇し、その影響で昨年度同様に製パン・製麺事業の収入は減収、支出は増加で、収支は昨年より下回りました。また副資材・原材料等の段階的値上げが継続されました。また10月頃から焼き菓子の原材料であるバターの出荷制限がかかり新たな課題となっております。生産量の維持に努めるため、新たな仕入れルートの開拓や、外国産バターを使用した新規商品開発の努力を行なっています。令和5年4月1日付で、施設給食卸値の一斉値上げを計画しました。引き続き収入を圧迫しないように、支出を抑える対応をしました。令和6年度4月以降には、店舗販売のパン・菓子類、中華麺の値上げを検討しています。引き続き市場経済状況に合わせ収入の向上が図れるように努力を続けます。

支援に関しましては、月次班別会議の中で支援計画の進捗状況等を確認し、他班の利用で幅のある支援内容に努めました。また計画相談や関係機関との連携も意識し、コスタ会議に「よるべ沼代」と「地域支援課」職員の参加協力を得ています。

■事例 KYさん 46歳・男性・区分4・SP企画所属。

「コスタ・二宮で働きたい」と長年希望され、関係機関や保護者との面談や調整を重ねました。衛生面の課題や足の機能が心配されましたが、SP企画で食品作業にかかわる為の支援を続け、10月コスタでの実習を経て11月1日より製パンA班で作業を行う。移行後の作業支援も順調です。工賃が増えた喜びを実感され作業へのやる気も向上。ご本人ご家族共に満足されています。

- ① SP企画では感染対策を継続し、安心して活動できるよう配慮しました。生産活動では小田原提灯とクラッチパーツが主力作業でしたが、重度・高齢化が進み限定的な利用者さんでの作業となりました。R4年11月にハルメク作業が終了した事や、落花生の殻剥き等の依頼が無い事など、減収の原因が多かったです。毎月の料理教

室や買い物・外食・図書館利用等の外出支援を実施し、個別支援の質の向上を果たしました。

- ② 余暇支援では、開所日に日帰り旅行や夏・秋祭りなど季節ごとの行事と誕生会を実施。また感染症予防を意識して、外食や楽しみの機会を増やす取り組みを行ないました。

3年間の収支状況	製パン班(B型事業)	製麺班(B型事業)	SP企画(生活介護)
令和3年度	(収入) 12,567千円	(収入) 6,964千円	(収入) 2,121千円
	(収支) 1,969千円	(収支) 466千円	(収支) 446千円
令和4年度	(収入) 11,811千円	(収入) 7,038千円	(収入) 2,126千円
	(収支) 660千円	(収支) 370千円	(収支) 92千円
令和5年度	(収入) 12,507千円	(収入) 7,548千円	(収入) 1,142千円
	(収支) 120千円	(収支) 479千円	(収支) △206千円

〔3〕次年度に向けて

- ① 「B型事業」では、コロナ5類指定になり地域活動が活発になりました。二宮町や大磯町他の福祉祭りや商工会イベントなどの機会が増えました。また事業所のテーマ「一目置かれる存在」を目標にコスト・SPを地域社会に知ってもらうために、パン・焼き菓子・麺・の主力商品の販売を通じて、売り上げ増に繋がる積極的な活動を行いたいと思います。そして引き続き原材料他全体的な値上げは継続されると想定されるので、経済情報を把握し対応できるよう価格調整や経費節減を行っていきます。
- ② 「生活介護事業」では、個別プログラムや支援を充実させる計画を行います。コスト食品を販売促進するための、自主製品である紙袋やマグネットの作成など、新たな商品開発に努めます。また理学療法士の機能維持訓練や看護師による健康指導など、楽しく健康に働く事を目標として、健康と機能維持に努め安定した利用目指し支援していきます。
- ③ コロナウイルスも日常的に共存し、活動の幅が広がりました。次年度はクラブ活動と委員活動を計画しています。楽しみである余暇支援を自分たちで決められる機会を設定して支援し、積極的に主体的な余暇活動を実施し、施設での活動を活性化します。

〔4〕利用者状況

■年齢区分（令和6年3月31日現在）									
	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計
男(B型)	0	2	2	5	3	2	0	45	14
女(B型)	0	1	3	3	2	3	1	49	13
男(生介)	0	4	3	4	0	3	1	43	15
女(生介)	0	0	0	2	2	0	4	62	8
最小年齢 : 19才 ・ 最高齢 84才									

■ 障害支援区分（令和6年3月31日現在）									
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男(B型)	3	0	3	3	5	0	0	2.5	14
女(B型)	4	0	2	5	2	0	0	2	13
男(生介)	0	0	1	4	8	2	0	3.7	15
女(生介)	0	0	0	3	5	0	0	3.6	8

■ 在所年数（令和6年3月31日現在）									
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	計
男(B型)	0	1	2	1	2	3	1	4	14
女(B型)	0	0	1	4	5	2	1	0	13
男(生介)	0	0	8	4	0	1	2	1	15
女(生介)	0	0	2	3	2	1	0	0	8

■ 開所日数および利用者数・利用日数（令和6年3月31日現在）									
【生活介護（生産型）】		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開所日数		21	21	22	22	21	21	128	
実人数	男	18	17	17	17	17	17		
延べ利用日数		302	324	326	333	321	305	1911	
実人数	女	7	7	7	7	7	8		
延べ利用日数		111	114	116	124	111	123	699	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
開所日数		22	22	22	21	20	21	256	
実人数	男	16	15	15	15	15	15	❖	
延べ利用日数		316	302	301	279	272	285	3,666	
実人数	女	8	8	8	8	8	8	❖	
延べ利用日数		133	126	125	121	114	120	1,438	
【就労継続支援B型】		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開所日数		21	21	22	22	21	21	128	
実人数	男	12	13	13	13	13	13		
延べ利用日数		233	241	249	246	224	205	1398	
実人数	女	13	13	13	13	13	13		
延べ利用日数		206	215	227	232	194	195	1260	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
開所日数		22	22	22	21	20	21	256	
実人数	男	13	14	14	14	14	14	❖	
延べ利用日数		238	259	264	239	234	234	2,866	
実人数	女	13	13	13	13	13	13	❖	
延べ利用日数		215	213	220	205	188	213	2,523	

■ 工賃実績（前年対比） 令和4年4月～令和6年3月までの一人当たりの月平均			
	令和4年度実績	令和5年度実績	備考
生活介護（生産型）	目標(5,000)	目標(3,000)	・小田原市観光協会(提灯組立)・太陽物流(自動車部品) ・共同受注(水道メーター解体)・秋沢農園(ミカン皮むき)
	5,119	3,173	
就労継続支援B型	目標(22,800)	目標(23,100)	・製麺、製パン作業 ・施設外支援(柳川乳業)
	21,832	21,081	

〔5〕 短期入所事業 〔6〕 相談支援 *いずれも事業の実施無し

〔7〕 令和5年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

具体的活動	到達点	実施状況	評
権利擁護 ◆利用者を含めた定期的な学習の機会と調査を	定期的な虐待防止委員会開催と自己チェックの	主任者会議で虐待防止委員会の機能を持たせ、コスト会議でチェックする仕組みができた。開所日に定期的に学習の機会を作ることができた。自	○

実施する。 ◆虐待防止委員会の設置、開催に取り組む	実施。	己チェックは6・10月に実施し職員の意識向上に効果有。	
人材育成 ◆働き易さの視点から、定期的な面談やチェックを行う。 ◆E-ラーニングを活用し、個別学習を人事考課の仕組みに取り入れ、人材育成の仕組みとして活用する。	会議での話し合いから、価値観を共有し個別の成果が評価できた	定期的な個別面談で働き易さの視点をチェック。各会議(主任・サービス・コスト)は、人材育成に繋がる意見交換や学習の機会になった。Eラーニングの活用不足が課題。人事考課の課題としたが、追跡確認が弱くレポート提出など成果が上がらなかった。全体で視聴の機会を作り、感想や議論の機会が有効性につながると感じ反省。	△
業務検証と改善 ◆ヒヤリハットの集計と満足度調査の実施。 ◆個別支援の充実を図る。	集計と確認を行い業務や支援の改善につながった。	ヒヤリハット集計は月次で実施し、コスト会議で確認する。満足度調査は2月に実施。利用者・保護者の具体的な要望や満足度を確認ができ効果あり。旅行や次年度の希望など、都度調査確認をする事が、業務の改善に有効でした。個別支援計画の充実に繋がった。	○
地域社会との連携 ◆利用者さんが参加し関わる機会を作り地域の関係性を広げる。	二宮町他、地域の社会活動に積極的に参加して、関係性を維持・発展することができた	二宮町・社協他近隣イベントのバザー出店の機会も増えました。一目置かれる存在を意識し、法人の活動を地域社会に知ってもらう為、地域の関係性を広げる活動に積極的に参加しました。カナカナ事業所と合同秋祭りを開催した。	○

〔8〕防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
4月	水消火器を使った消火訓練体験	利用者	水消火器を使用し、消火器の使い方消火のやり方を学習。
9月、3月	避難誘導訓練と初期消火・通報訓練	利用者・職員	地震、火災が発生したと想定し避難誘導訓練の実施。火災通報装置を使用し、通報する際の確認をする。

〔9〕リスクマネジメント(事故報告)

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
ケガ	0	
利用者トラブル	0	
車両	4	パンエブリ廃車しハイゼット納車・保冷車ミッション修理・マイクロバス、ラジエター交換・バネット、バッテリーの不具合
物品破損	1	コスト内雨漏り修繕。
その他	1	外出先で2時間所在不明。

《重大事故》 ※R5年度は県・市町へ報告は0件。

〔10〕 苦情解決

苦情件数 0件

・ コスタ秋祭り (10月)

・ Xmas会(12月)

・ 開所日 吾妻山散策 (1月)

・ コスタ食品製造 (3月)

【 梅香園 】 令和5年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

- ・利用者さんに安心して安全なサービス提供をします。
(ヒヤリはつとを主に検証と改善策の確認をします。)
- ・サービス事業の充実を図るため、業務の検証と改善を推進します。
(利用者の適性や特性を考慮した作業内容等を検討し、最善な利用者支援を展開します。)
- ・人材の確保と職員のスキルアップを図ります。
(オンライン研修の導入と職員研修の充実を図ります。)
- ・地域活動・行動への参加・協力とともに、地域への啓蒙活動を推進し、地域・関係機関との関りを深めていきます。
(地域行事に積極的に参加し、は～とふる通信を年2回発行します。)

〔2〕 取り組みと状況報告

- ・5月8日に5類に移行された新型コロナウイルスの感染防止対策として、改めてガイドラインを作成するとともに、手指消毒・マスクの着用・黙食等できることは継続して取り組み、若干利用者職員で感染したが、拡大することはなかった。
- ・リスクマネジメント委員会にてヒヤリはつとの分析及び対策に加えて、虐待防止委員会の役割を加えて、虐待防止に向けて研修や意見交換を行った。
- ・主任会議の場だけでなく、LINE ワークスを活用して業務の検証を行ったが、十分な成果とはいかなかったが、環境整備は着手できたと思われる。
- ・利用者支援の場において、生活介護では、新たに導入した内職の作業で、これまではなかった作業工程が増えたことにより、出来る作業が増え工賃も多くなって自信もつき、他のことにもチャレンジすることが増えるなど効果が出てきた。
B型では、分かれていたグループを一つにして、作業ごとに利用者が分かれて活動することになり、評価方法を変更し職員全員で協議する形をとり、利用者も今までとは異なった作業に取り組むことが増え、他の利用者の作業姿勢に刺激受け、積極的に作業に取り組む利用者が増えてきた。
- ・外部研修及びオンラインによる研修への、参加促進を図ることができなかった。
- ・地域の行事は規模を縮小して再開するものもあったが、参加できるものではなかった。同様に地域の方が参加していただく行事もコロナ感染が心配だったので開催できなかった。は～とふる通信は、委員会が計画通りに開催できなかったため作業が停滞してしまった。

〔3〕次年度に向けて

- ・安心安全なサービスを提供するため、新型コロナウイルスの感染状況を見極めて、慎重に対応していきたい。加えて、虐待防止、身体拘束、感染症対策等新たな課題にも取り組まなくてはならないため、体制整備して取り組んでいきたい。
- ・業務改善については、職員から建設的な意見が出てくるように環境整備して、検証していく。
- ・「利用者の可能性（持っている力）を引き出す」ことが出来るよう、職員が自己研鑽して、スキルアップすることが求められているので、オンライン研修を含めて、自己研鑽を推進していきたい。
- ・地域行事へは協力するとともに、は一とふる通信を定期的発行出来るように、委員会の活動を計画的に行い、活性化していく。

〔4〕利用者状況

■年齢区分（令和6年3月31日現在）										
									最年少：19歳	最高齢：90歳
	～20歳	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	平均年齢	計	
男	1	4	5	4	8	2	3	45.7	27	
女	0	3	5	4	8	1	1	44.3	23	
計	1	8	10	8	16	3	4	44.6	50	

■障害支援区分（令和6年3月31日現在）									
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男	5	1	3	1	9	4	4	3.3	27
女	1	0	1	5	8	4	4	4	23
計	6	1	4	6	17	8	8	3.65	50

■在所年数（令和6年3月31日現在）								
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上
男	1	0	2	5	0	10	3	7
女	0	0	1	0	6	4	4	7
計	0	0	3	5	6	14	7	14

■開所日数及び利用者数・利用日数（令和6年3月31日現在）													
生活介護生産型	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	21	21	22	22	21	21	23	21	22	21	20	21	256
実人数	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	136
延利用日数	242	245	256	256	227	226	247	223	234	213	209	225	2803
実人数	14	13	13	14	13	13	14	14	14	13	14	13	162
延利用日数	246	249	254	259	243	243	269	247	263	229	213	191	2906

■就労継続B型													
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	21	21	22	22	21	21	23	21	22	21	20	21	256
実人数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	16	16	16	183
延利用日数	304	304	326	304	300	297	338	306	320	294	302	316	3711
実人数	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	101
延利用日数	172	175	179	172	162	137	147	138	141	137	140	125	1825

■工賃実績（前年対比）			
	令和4年度	令和5年度	備考
生活介護	目標3,000円	目標3,000円	収入：2,329,441円
(生産型)	4,656円	5,951円	支出：1,947,979円（工賃：1,363,600円）
			アルミ缶つぶし・自主製品作成・受注作業等 北原清掃・高架下除草
就労継続	目標20,000円	目標20,000円	収入：14,301,903円
支援B型	21,442円	22,126円	支出：9,891,449円（工賃：5,729,500円）
			施設外就労：ラールス/施設外作業：ひかりの里・足柄療護園清掃/印刷・受注作業等

〔5〕日中一時事業

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
開所日数	21	21	22	22	21	21	23	21	22	21	20	21	256	
実人数	男	5	5	4	6	7	4	4	5	4	5	4	4	57
延利用日数		46	45	46	51	47	44	48	41	44	45	40	41	538
実人数	女	1	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	8
延利用日数		1	0	0	0	1	1	0	1	2	1	1	1	9

〔6〕令和5年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

具体的活動	到達点	実施状況	評
【権利擁護の確立】 職員研修を年2回実施と権利擁護に対する自己チェックを行い、権利擁護に対する意識を高める。	定期的な研修と自己チェックを行う事で、権利擁護に対する意識が高まった。	年2回の研修を予定し、計画はしたものの実施までには至らなかった。権利擁護部会（主任会）やリスクマネジメント委員会の中で、権利擁護について考える機会は多くあったが、そこから全体で考えたり検討する等うまく企画することが出来なかった。改めて権利擁護に対する意識を高めていく仕組みや研修などを考えていければと思う。	△
【業務の検証と改善】 業務改善に向け現場職員からの意見抽出の機会と仕組みを確立する。	必要な課題を抽出することで、職場環境を改善しよりよい利用者支援につながった。	LINEWORKS を活用して意見を抽出することは、少しずつ意見が出てくるようになった反面、意見が特定の人を攻撃してしまったりと前向きな意見や提案が出てこなくなってしまった。LINEWORKS などのツールを使うことも良いが、日常的に意見や提案が出来る状況をいかに作るかが課題と感じている。	△

<p>【人材確保と育成】</p> <p>法人内外の事業所の 見学研修を計画し、 専門性の向上を図る。</p>	<p>職員の専門性が 向上し日々の支 援に活用でき た。</p>	<p>外部の方を招いての研修を予定していたが、 日程調整がうまくいかず、開催出来なかつ た。内部で研修やスペシャルラーニングを利用 しての研修なども積極的に実施することが出来 なかった。 昨年度からの課題で現状の仕事に追われて しまい余裕がなかったこと、仕組みづくりが 整備できなかったことが原因と考えている。</p>	<p>△</p>
<p>【地域社会との連携】</p> <p>障がい者の啓蒙活動</p> <p>地域と連携した行事運 営と「は一とふる通信」 の定期発行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方と一 緒になった行 事の運営等 ・ は一とふる通 信の発行 	<p>地域の方と連携しての行事は出来なかつ たが、誕生会に演者さんを招いたり、ボラン ティアさんの受け入れ等出来る限り行ってき た。は一とふる通信は、定期発行を掲げてい ましたが、年度内に1度しか出来ていない。 委員会活動が計画的に行えていなかった事、 職員が計画的に考えて行えていないことな ど今後の活動について再検討していかなけ ればいけない。</p>	<p>×</p>

〔7〕 防災……………年1回、火災想定避難訓練のみ

〔8〕 リスクマネジメント（事故報告） 合計 141件（内GH 21件）

種類	回数（GH）		内容等
転倒・転落	18	2	機能的に低下している方が転倒するリスクが増えた
服薬	9	5	基本的な手順ミスによるもの、マニュアルにより未然に防げたもの
けが	3	—	掃除中にドアのねじにあたってケガ、軍手に穴が開いていて作業
利用者トラブル	5	—	肩を叩かれたがぶたれたで言い争い
車輛（送迎含む）	1	—	乗せるコースを間違えてしまう
物品破損	1	—	窓ガラスを頭突きで割ってしまう
その他	104	14	免許不携帯、連絡ミス、発注ミス、確認ミス等々

《重大事故》 事故報告はなし。

〔9〕 苦情解決… 苦情件数 0件

<新年会&祝新成人>

<Xmas 会の一コマ>

<ハイキング>

<納涼大会>

【 あずさの家 】 令和5年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

- ・利用者さんに安心して安全なサービス提供をします。
(ヒヤリはつとを主に検証と改善策の確認をします。)
- ・サービス事業の充実を図るため、業務の検証と改善を推進します。
(利用者の適性や特性を考慮した作業内容等を検討し、最善な利用者支援を展開します。)
- ・人材の確保と職員のスキルアップを図ります。
(オンライン研修の導入と職員研修の充実を図ります。)
- ・地域活動・行動への参加・協力とともに、地域への啓蒙活動を推進し、地域・関係機関との関りを深めていきます。
(地域行事に積極的に参加し、「は～とふる通信」を年2回発行します。)

〔2〕 取り組みと状況報告

- ・梅香園で作成した新型コロナウイルスのガイドラインに沿って対応するとともに、状況に応じてホーム内では規制を緩和して、入居者のストレスを減少させた。あずさの家では残念ながら3月に感染が続いて3週間ホームをロックダウンした。
- ・ホーム会議やミーティング等で、潤いのある生活づくりを中心に協議及び検証を行い、少しずつですが改善することが出来ています。
- ・入居者から「安心できる存在」となるように、安心して安全なホーム生活となるよう取り組んできたが、ホーム内での利用者間のトラブルや職員とのコミュニケーション不足により、ホーム生活が出来なくなってしまう方や、一方、コロナ感染の後遺症から不安定となり入院、退院後は日中活動の場に通えなくなり、引きこもり状態の方は、振り回されながらも根気よく支援したことにより、少しずつ明るくなり、ホームでの生活が安定してきた方もいる。
- ・外部研修・オンライン研修ともに業務に追われて進めることが出来なかった。
- ・地域行事も少しずつ再開されてきており、積極的に参加している。
- ・は～とふる通信については、園の委員会に参画しているが、計画的な運営とはならず参加できていない。

〔3〕 次年度に向けて

- ・コロナ感染の状況を踏まえながら、慎重に対応していきたい。生活の場であることを踏まえて、新たな課題である虐待防止・身体拘束（行動制限）・感染症対策に取り

組んでいきたい。

- ・支援の場での「気づき」を大切にして、「ひやりはっと」にあげていき、安心安全なサービス提供に取り組んでいく。
- ・入居者が安心して暮らしやすく、潤いのある生活となるように、ホーム会及び各ホームのミーティングを中心に協議して支援を展開していく。
- ・生活支援の場で命に係わる事案に関する研修（救急法）を企画していく、加えて各職員がオンライン研修を含めて、様々な研修に参画できる環境整備を進めていく。
- ・地域行事へ積極的に参加していくとともに、梅香園で発行する「はーとふる通信」の活動に協力していく。

〔4〕利用者状況

<p><事業所名></p> <p>あずさの家（定員 21 名）</p>	<p>├──</p> <p>├──</p> <p>└──</p>	<p><グループホーム名></p> <p>あずさの家（女性専用）</p> <p>ポプラの家（男性専用）</p> <p>※短期入所事業（空床型 1 名）</p> <p>わたくも（アパート型）</p>	<p><定員></p> <p>7 名</p> <p>7 名</p> <p>7 名</p> <p>7 名</p>	<p><現員></p> <p>6 名</p> <p>6 名</p> <p>6 名（計 18 名）</p>
---	----------------------------------	--	---	--

- ・ホームの運営が地域生活支援課と一緒にになるので、業務内容・支援方法・情報の共有等々平準化できるように検討を重ねて、よりよいものにしていく。

■年齢区分（令和6年3月31日現在）									
	～20歳	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	平均年齢	計
男	1	1		1	3	3	3	55.2	12
女			1		4		1	56.3	6
計	1	1	1	1	7	3	4	53.4	18

■障害支援区分（令和6年3月31日現在）									
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男		1	2	3	4	1	1	3.4	12
女				1	1	3	1	4.7	6
計		1	2	4	5	4	2	3.8	18

■在所年数（令和6年3月31日現在）								
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	計
男	1		2	5	4			12
女				1	5			6
計	1		2	6	9			18

■開所日数及び利用者数利用日数(令和6年3月31日現在)														
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
実人数	男	11	11	11	11	11	11	11	11	11	12	12	12	135
延利用日数		316	323	317	327	313	318	332	319	322	317	326	352	3882
実人数	女	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	82
延利用日数		206	213	207	214	211	201	212	208	213	202	173	186	2446

〔5〕短期入所事業

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	7	7	8	9	9	9	9	9	9	8	7	7	98
延人数	9	10	12	12	14	16	16	15	15	14	14	14	161
延利用日数	24	28	30	29	38	44	40	38	39	33	34	34	411

〔6〕令和5年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

※梅香園の令和5年度まとめに準じる

〔7〕防災…火災避難訓練、地震による避難訓練を実施し、併せて広域避難場所までの避難も実施した。

〔8〕リスクマネジメント(事故報告)

※梅香園のリスクマネジメントに準じる。

〔9〕苦情解決…苦情件数 0件

【わらべの杜】 令和5年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

社会的養護を必要とされている児童に対し、安心・安全な“暮らし”を提供します。入退所における空床がないよう事前の調整等を図り、通年通して安定した運営となることを目指します。また、円滑な地域移行となるよう早期の移行調整を図り、児童にとって最適な暮らしの場へつなげていくようにすすめていきます。

児童の権利擁護に関しては、児童虐待の防止と職員の意識向上に今後も引き続き努めていきます。

〔2〕 取り組みと状況報告

○ 地域移行と自立支援

年度当初9名の高3生と過齢児1名が在席していたが、8月に中1男児が家庭復帰、その後9月に高3生1名がGHへ移行。10月、11月と続けて各1名（過齢児含む）が移行した。年度末まで在席となった7名の高3生全員が移行。

■<事例>行動障害があり重度障害児の移行では、高2からの早期の準備、見学、体験、振り返りと丁寧な説明と引継ぎを行い、関係機関（保護者、児童相談所、市、学校、わらべの杜）による連携での好事例となった。一方で、相談支援事業所を見つけることに課題を感じる1年でもあった。

短期入所はコロナ5類以降に再開し、少しずつ受入れを行いながら、同時に緊急一時保護の受入れをしてきた。依頼が多く、全ての受入れは困難であったが、空床の有効利用をすすめるように向けてきた。

またこの2～3年間、重度障害児の候補が少ない上、受入れとして難しいケースが多かったことも影響し、重度ユニットの空床が目立っていたことを受け、年度途中から重度ユニットの中軽度化を目指し、検討を重ねてきた。結果、全ユニットを中軽度化していく方向となり、幼児の受入れも含め入所検討を開始した。

○ 権利擁護と虐待防止への取り組み

虐待防止委員会1～2か月に1回のペースで開催し、虐待事案を例にあげた意見交換、施設内の虐待防止に係る確認を中心に会議を重ねてきた。担当職員1人に責任がかかることをなくし、施設全体で対応していくことを意識した取り組みを行ってきている。

○ 地域活動への参加

橘北地区における地域活動として、“まちづくり委員会”へ参加し、定期的に会合にて地域行事の確認を実施。行事への積極的な参加も行ってきた。しかしながらコロナやインフルエンザといった感染症の発生により、行動制限が出てしまうことがあったが、児童も楽しく参加することもできた。

〔3〕次年度に向けて

課題となっている重度ユニットの中軽度化を推進し、中軽度化における課題の整理、早期対応を心掛け、安心・安全な暮らしの実現に向けて取り組んでいく。

- 児童の楽しみ作り：行事やレクリエーションを充実
- 職員の働きやすい環境作り：業務・労働環境の見直しと改善
- 職員研修の推進：視野を広げ、見識を深めることを目指し、次のステップへ
- 地域社会との交流：積極的な地域行事への参加

〔4〕利用者状況

■年齢区分（令和6年3月1日現在）								
	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18～19歳	20歳～	平均年齢	計
男	0	3	6	11	4	0	15.0	39
女	0	2	4	1	1	0	13.4	21.4
措置	0	5	10	11	5	0	14.5	45.5
契約	0	0	0	1	0	0	17.0	18
最小年齢：9才 ・ 最高年齢 18才								
■在所年数（令和6年3月1日現在）								
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年以上
男	0	1	4	3	4	8	4	0
女	0	2	0	2	2	2	0	0
■開所日数および利用者数・利用日数（令和6年3月1日現在）								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数		30	31	30	31	31	30	
実人数	男	26	26	26	26	26	26	
延べ利用日数		780	806	780	806	806	780	
実人数	女	8	8	8	8	9	8	
延べ利用日数		240	248	240	248	279	240	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	26	25	24	24	23	20	298
延べ利用日数		806	750	744	744	644	620	9066
実人数	女	8	8	8	8	8	7	96
延べ利用日数		248	240	240	240	224	217	2904
■療育手帳程度別在所者数（令和6年3月1日現在）								
	最重度	重度	中度	軽度				
				手帳無し				
男	1	2	4	17	0			
女	1	1	0	6	0			
■令和5年度新規入所児年齢（令和6年3月31日）								
	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	計			
男	0	0	0	1	1			
女	0	1	1	0	2			
措置	0	1	1	1	3			
契約	0	0	0	0	0			
■令和5年度退所児者の状況①（令和6年3月31日）								
	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18歳以上	計		
男	0	0	1	0	2	3		
女	0	0	0	1	0	1		
措置	0	0	1	0	1	2		
契約	0	0	0	1	1	2		
■令和5年度退所児者の状況②（令和6年3月31日）								
	障害者支援施設	グループホーム	在宅	他				
男	7	3	1	0				
女	0	1	0	0				
措置	6	3	1	0				
契約	1	1	0	0				

〔5〕短期入所事業及び一時保護

■短期入所														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
実人数	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	9	
延べ人数	0	0	1	3	3	0	1	2	1	1	1	1	14	
延べ利用日数	0	0	2	5	5	0	2	4	2	2	2	5	29	
■一時保護														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
実人数	1	1	1	1	6	1	1	1	3	1	1	4	22	
延べ人数	1	1	1	1	6	1	1	1	3	1	1	4	22	
延べ利用日数	10	6	30	31	44	10	2	7	29	31	29	58	287	

〔6〕相談支援

■障害児相談支援件数														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
新規相談	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	
モニタリング	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4	
計	1	2	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	7	

〔7〕令和5年度まとめ

項目	到達点	具体的活動	評価
【権利擁護】 (1 寮) 子ども会議の実施の継続、ユニット会議にて意思決定支援を共有していく。卒園後を見据えた支援に取り組む。	意思決定の機会としていたこども会議を定期的に開催し日常生活におけるルールの在り方や卒園を見据えた支援を協議し実施していく。実施した内容について、ユニット会議や個別支援検討会議で振り返りと共有することが出来たか。	寮全体として高校生が多く、定期的な子ども会議でも移行を見据えた議題が活発に議論された。一例として子どもたちからの意見として、今まで職員が行っていた洗濯乾燥を、自分達で物干しをする→取り込む作業を中学生含めて実施するプログラムを導入。他、買い物体験等、子どもたち自身に卒園を見据えた意識が垣間見れた。	○
【権利擁護】 児童へアンケートを定期的の実施・評価・改善を行いながら客観的に2寮にとって必要な支援について話し合いを重ねていく。	職員の人権擁護に対する意識が向上するとともに、支援方法についての悩みや迷いの共有を行いながらチームとしての力を増幅させる。また、アンケートを行いながら児童等の発信しづらい思いもキャッチする事が出来たか。	児童へのアンケート実施は2月に実施予定だが、アンケートとは別に日々の関わりの中で児童の思いはキャッチ出来ている。児童の中でそれぞれ打ち明ける職員を持ってきていて職員間で共有できた。	○
【権利擁護】 (3 寮) 共有スペースの再構築に向けて子どもと検討しながら心地よい生活空間を築いていく。	子どもと一緒に作り上げる喜びを感じることが出来たか。また、再構築する事が出来たか。	作品コーナーには、作品や賞状を掲示し、賞賛の場に繋げている。また、自分たちで生活の場を作っているという実感が持てるように、整理棚の作成やゴミ箱の設置を一緒に行い、自主的に取り組めるような活用方法を子ども会議で検討している。	○
【業務の検証と改善】 ・調理場への食事の欠食・追加の際のペーパーレス化と効率化。 ・各寮から出されている届け出のタブレットやモニターでの確認が可能か検討し進めていく。	ペーパーレス化の検討と ICT を活用した実際の効率化が図れたか。	既存の食数表をICT化し、ペーパーレス化を検討してきた。食数が複雑化している現状や調理場との調整もあり、既存食数表の活用を頓挫。現在、専門機関へ相談しつつ、ペーパーレス化へ向けて、最適な方法を模索しています。	△
【人材確保・育成】 次世代を担う人材確保と育成の為実習中の丁寧なコミュニケーションとアンケートの様式の見直しと活用を行う。	実習生からの評価はどうだったか。次年度の職員候補となる人材の確保が出来たか。または積極的なアプローチが出来たか。	実習後に記入して頂くアンケートは概ね高評価であるが、福祉に興味を持つ学生が実習に来ない現実を目の当たりにした一年であった。特に夏を超えてからは就職が決まっている学生の受け入れが多く、人材の確保という点では苦しい結果であった。	△
【地域社会との連携】 まちづくり委員会での地域行事の確認と手伝いへの参加。 地域行事へ積極的に参加していく。	まちづくり委員会への出席と地域行事に積極的な参加が出来たか	まちづくり委員会には定期的に出席し、地域行事の確認および役割に参加し、わらべの杜児童も行事への参加をすることもできた。	○

〔7〕 防災

実施月	実施内容	対象	状況
4・6・9・10・11・12・ 1・2・3月	避難・通報・消火	全利用者	1階損壊を想定した垂直避難訓練も実施。児童には、何の災害発生かにより避難場所が違ふということをあらためて訓練で説明。
5・7・8月	【夜間】 避難・通報・消火		

〔8〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
服薬	3	児童が職員の腕をひっかいたことで薬が落下／飲み忘れ 他
ケガ	0	
利用者トラブル	3	児童が他児へ噛みつき行為（3回）
車両	1	有料駐車場にて当て逃げ
物品破損	0	
その他	5	ユニットから他の場所へ行ってしまふ／洗濯室に隠れる 他

《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
9月10日	所在不明	一時保護児童が施設から出てしまふ所在不明	すぐに気づくが追いつけず。児童相談所へ報告し1時間後に親戚宅にて所在確認。	一時保護児童ということもあり、本人情報が不足していたことから、事前情報の共有を強化。
1月29日	所在不明	入所児童が窓から抜け出し施設外へ出てしまふ。	周辺を搜索。隣地の畑にいるところを発見し保護。	幻覚症状と思われる言動もあり、医療・関係機関との協議のもと窓への施錠を実施。
2月27日	転倒	バス降車後の待機時に転倒。頭部がバスのタイヤホイール当たってしまう。	緊急通院にて処置。傷口の縫合のみ。	後日脳神経外科を受診。待機時の付き添い方、急な脱力への対応を見直し。
3月2日	その他	12歳未満児へのコロナワクチン接種時に大人用を打ってしまった（医療機関）	医師へ12歳未満であることを伝え、すぐに確認。経過観察にて問題無し。	12歳以上の列の中に12歳未満が混ざった並び方をしていたこともあり並び方の配慮を行うよう再確認。

〔9〕 苦情解決 件数 0件

《クリスマスパーティ》

《初詣（川勾神社）》

《どんど焼》

【どーむ（童夢）】 令和5年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

安定した事業運営を目指し、活動を通して広く周知をしていきます。

また、療育を必要とされている児童に対し、可能な限りサービス提供できるよう関係機関との調整を図り、児童に丁寧かつ慎重に支援し、保護者への支援も実施しながら、児童の健やかな成長をサポートしていきます。

〔2〕 取り組みと状況報告

「発達支援」「家族支援」「地域支援」の3本柱に対し

「発達支援」ではお子様の発達段階に合わせた療育を心掛け、行動特性を会議でしっかり確認していくことで共通認識のもと療育を実施してきた。玩具も幅を広げ、教材の充実も図り、児童の興味と集中力をつける療育にも力を入れてきた。

「家族支援」では、定期面談だけではなく、コロナ禍で開催できなかった茶話会を4回開催。そのうち1回は、卒園した児童の保護者にもご参加していただき、卒園前後にかかるご苦労話をうかがい、事前の準備に必要なこと等をアドバイスいただくこともできた。

「地域支援」では、新規利用児童の併行通園先への訪問を繰り返し実施し、関係機関と情報共有だけに限らず、顔の見える関係作りをすすめ、互いの協力により本人、ご家族を支えるよう向けてきた。＜事例＞家庭基盤の脆弱な母子家庭のお子さんへのネグレクトが見られたご家庭への支援として、卒園と同時に他市への転居を希望していることもあり、関係機関を交えたカンファレンスを行いながら、母の思いを受け止め丁寧なフォローを実施し、無事に他市への転居をすることができた。

今年度は12名の年長児がおり、就学に向けた支援も継続し、安心して送り出せるようつながる支援を実施してきた。

「車両への意置き去り防止」装置については、無事に設置完了。装置の使用方法について全職員に研修実施。

〔3〕 次年度に向けて

児童虐待関連の記事が多く見られる中で、どーむとして安心できる場の提供をもう一段階ステップアップできるよう取り組みを実施していく。

保護者からいただいた「事業所評価」も参考に、改善すべき内容を検討し、情緒の安定を図れる環境設定、児童の側に立った視点での療育の展開等を進めていく。また、家族支援をさらに充実させ、安心した子育てができるよう新しい取り組みについて検討し、準備または実施をしていく。例年、様々なご事情で苦労さ

れているご家族が多く見られているため、臨機応変、迅速な対応を心掛けるとともに、柔軟性を持った療育展開により、ご本人、ご家族への支えとなるよう取り組んでいく。

〔4〕利用者状況

■年齢区分（令和6年3月31日現在）								
	3歳未満	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児以上	平均年齢	計	
男	0	1	6	8	0	5.6	15	
女	0	0	2	5	0	5.5	7	
最年少：3才								
■在所年数（令和5年3月31日現在）								
	3ヶ月未満	3ヶ月～6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～2年未満	2年以上			
男	0	0	10	4	1			
女	0	0	3	2	2			
■開所日数および利用者数・利用日数（令和6年3月31日現在）								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
開所日数		20	19	21	20	21	21	122
実人数	男	8	10	13	15	15	15	76
延べ利用日数		39	43	56	64	54	65	321
実人数	女	5	6	6	6	7	7	37
延べ利用日数		31	30	37	32	32	38	200
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		21	21	20	20	21	21	124
実人数	男	15	15	15	15	15	15	90
延べ利用日数		70	54	51	56	46	49	326
実人数	女	7	7	7	7	6	6	40
延べ利用日数		37	41	36	38	35	28	215
■住所地（令和6年3月31日現在）								
	小田原市	中井町	大井町	松田町	開成町	二宮町	その他	
男	11	3	0	0	0	1	0	
女	3	2	1	0	0	1	0	
■入退所状況（令和6年3月31日現在）								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
入所	男	3	4	2	0	0	0	6
	女	1	0	0	0	1	0	1
退所	男	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	男	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0
退所	男	0	0	0	0	0	8	8
	女	0	0	0	1	0	3	4
■利用の経緯（令和6年3月31日現在）								
	発達相談	市町子育て	健康づくり課	つくしんぼ教室	他			
男	9	3	1	0	2			
女	3	2	0	0	2			
計	12	5	1	0	4			

〔5〕令和5年度まとめ

具体的活動	到達点	実施状況	評価
非常勤含めたどーむ研修の開催(年2回)に加え、権利擁護、アンガーマネジメント、発達支援(療育)とは、といった初歩的な内容を含め検討と開催を行う。	年2回の研修とその他研修により、非常勤職員含めた全職員のスキル向上につながった。また研修を経て、支援方法に改善が図られ療育の質の向上につながった。	全職員対象の研修を2回開催。第1回は児童発達支援センターへの見学研修、第2回では「療育とは」をテーマに小田原市下澤氏を講師に講義をいただくことができた。	○
茶話会の開催による保護者の不安や養育に関する困りごとなど共有することで保護者の心を元気にする	「保護者による事業所評価」や面談時に保護者の明らかな変化が感じられた。	茶話会を年4回の開催をすることができ、昨年度まで事業所評価の中でできていなかった取り組みが評価され、保護者の皆さまから好評をいただくことができた。	○

〔6〕防災

実施	実施内容	対象	振り返り
毎月1回	避難・通報・消火	全利用者	曜日を変えながら毎月実施。参加児童もスムーズな動きができていた。

〔7〕リスクマネジメント(事故報告)

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
服薬	0	
ケガ	0	
利用者トラブル	1	送迎車内で落ち着くことができず、保護者送迎へ切り替えていただいた
車両	1	ドライブレコーダーの不具合。
物品破損	0	
その他	0	

《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策

〔8〕苦情解決 件数 0件

《みんな de たこあげ》

《調理場にお食事のお礼》

《茶話会》

【ぽけっと】 令和5年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

障害者就業・生活支援センターとして、「就職や職場適応などの就業面の支援や、生活習慣の形成や日常生活の管理など生活支援が必要な障害者に対して、就業に伴う日常生活、社会生活上の支援を行い、身近な地域で就業面及び生活面で一体的かつ総合的な支援を提供し、職業生活における自立を図る」を目的とした事業運営を基本に、職員のスキルや経験を活かしたライン制を構築し、より効果的な支援提供を目指した。また、これまで取り組んできた虐待防止体制（権利擁護）を維持しながら、より良い相談支援の場として取り組めるように、登録者と同じ風景を観ながら各自の相談スキル・コーディネート力の向上を図ることを運営目標とした。

〔2〕 年間のまとめ

障害者支援センター「ぽけっと」は「障害者就業・生活支援センター事業」において、県西障害保健福祉圏域を中心に、障害種別を問わず障害のある人の就業に関する相談や支援および生活支援を実施した。

＜今年度の目標と実績＞

項目	就職件数	実習件数	就職率	定着率（1年）
目標	40件	45件	60.0%	75%
実績	42件	42件	66.1%	85%

今年度も就職者数等の数値目標を掲げ、実績は概ね目標値を上回った。

前年度より実績が下回った要因は就労準備性が整っていない（就労まで至らない）新規登録者が多かった事が挙げられる。この状況を鑑み、ハローワークや福祉サービス事業所との連携をさらに強化する取り組みとして、今年度も ①圏域職業安定所との連携強化（チーム支援会議等の隔月実施） ②中小企業家同友会への参加（ダイバーシティ委員会の役員等） ③県西圏域（足柄上下郡）自立支援協議会での連携強化（行政・事業所との横の繋がり）を実施した。

事業主支援としては、企業交流会を4回実施、「多様性の働き」を通年のテーマとして雇用の幅が広がるなど好評を頂いた。

ネットワーク構築としては、自立支援協議会就労支援部会を始めとし、年間35回主催として活動、年々関係性の構築として強化の成果は出ていると感じる。

登録者へ向け、職場定着・就労促進に向け対面でのピア、勉強会、在職者交流、及び生活支援としてフリースペースをニーズに合わせ13回開催、アンケート等で高評価を頂いた。

■<事例>来年度、雇用率の引き上げ、新制度の導入にあたり障害者雇用での求人数が増加する反面、現状では就労準備性が整った登録者が少ない。その為、福祉サービス事業所の利用者の就労に向け、県西地域チーム支援会議及び、自立支援協議会就労支援部会を通し、行政・サービス事業所に就労事例の共有や就労準備性、今後の方向性の提示を行ってきた。

所内では、就労を希望されるが、準備性が必要な方へ11月から雇用を前提としない実習（体験実習）を企業と連携し実施。「株式会社だいご」にて、開店前の店内清掃2時間をぽけっと登録者・サービス事業所（移行・B型）の利用者を主として1週間～1か月間の体験実習をする流れで始動した。将来的には超短時間雇用で働くことを見据え、午前中はB型事業所へ通所し、午後に障害者雇用で働く等の想定の中で、福祉サービス利用にとどまらず、障害者のより多様な雇用場面の創出につながり、当事者、企業、福祉サービス事業所双方のウィンウィンな関係を目指した。行政も受給者証を出すことで、より多くの障害者の安定した就労に向け、一層支援の幅が広がると感じる。まずは、導入部分の体験実習により、働くことの学び、気づきに繋げることが出来た。

〔3〕次年度に向けて

上記の事例をより充実、目標を達成できるよう行政・サービス事業所との連携・理解促進を図るとともに、所内連携（内部コミュニケーション）の再徹底を図る。実績目標は今年度同水準以上を目指していくとし、数値のみでなく、質として事業主及び当事者が満足できる結果となるよう、職員の資質向上を目指す。来年度より障害者雇用率が上がり、制度面も変わる事で企業の障害者雇用が活発になると想定される。その為、より企業への理解と配慮を求める為に、伝える力（知識・説明力・相手のニーズをつかむ力）を高め、コーディネート力の向上を目指す。

〔4〕令和5年度事業報告 ※各事業所の課題および実施状況

【項目】 具体的活動	到達点	実施状況	評
【権利擁護】 ・定期的に話し合いの機会を作る。 ・チェックリストを通して効果測定を定期的に実施し、権利擁護できる力の向上を意識する。	・日常的に話し合える機会の実践を図る。 虐待防止マネージャー配置	毎月権利擁護チェックを実施・定期チェックで権利擁護について、ケースの共有及び情報提供を実施。虐待と思われる事例に遭遇した際の流れの確認等行った。虐待防止マネージャー研修も受講。次年度は、外部研修など取り入れ、所内の意識を高め ていく取り組みも必要。	○
【人材育成】 ・支援の質の向上に向け、	ライン間のスムーズな移行とチ	各ラインで定期的に会議の実施及び、ライン制についての検討	○

<p>支援内容の検証。ライン制を通じ、チームで行う。(各会議を通じ、現場の意見吸い上げ所内連携を強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化、明確化、スムーズな連携に向けライン制の確立と見直し。 	<p>ームとしての質の高い(アセスメント・マッチング)支援。スピード感、定着率の向上。</p>	<p>を全体で実施してきた。ライン制ではあるが、明確な線引きではなく、ケースに応じたスムーズな連携に向け、相互理解が深まった。PKP会議では環境整備、仕事の進め方、など仕事の効率化と改善をした。引き続き会議を定期的開催し現場からの意見や改善提案に積極的に取り組み、安心して安全、働きやすい職場を目指していく。</p>	
<p>【業務の検証と改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> PKP(ぼけっと改善プロジェクト)による、定期的な就業環境改善。 所内勉強会等による、職員のメンタルヘルス向上 制度面の変化に対応し、各種研修・連絡会議への積極的な参加。 ケース検討・精神医療勉強会を通じ、ケース検討力、相談・コーディネート力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分達の職場として働きやすい職場づくり、環境整備ができた。 ケースの共有を図ることで、視野が広がった。なかぼつ職員として、必要とされる役割を果たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉士による所内勉強会を実施。動機付け面接、行動療法についてぼけっとの価値と職員の価値、強み探しを実施。職員の支援スキルアップとともに、所内コミュニケーションを深められた。 ケース検討は、計4回実施。所内検討会、かながわAエースとの検討会各2回実施。所内検討会では、支援者としての視点や課題の導き方を理解・整理することができた。また、医療連携に必要な知識を共有することができた。 	△
<p>【地域社会との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と連携ネットワークづくり ぼけっとの活動の発信(通信・HPなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の発信をすることで地域への障害者の認知を高める。 	<p>イベントや職場実習等の取組みの周知を図った。中小企業家同友会みかさんフォーラムにも実行委員として参加し、ネットワークの拡充を図った。</p>	○

[5] リスクマネジメント (事故報告)

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	—
服薬	0	—
ケガ	0	—
利用者トラブル	0	—
車両	0	—
物品破損	0	—
その他	0	—

《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
0件	—	—	—	—

〔6〕 苦情解決

苦情件数 0件

企業交流会

ぼけっとピア

勉強会（アイコミュニケーション）